

GMAIS 概念モデルベース利用の経営日本語教育システム

－「実践知」獲得機能を主要機能として－

A Study of Global Model Architecture Information System -PIACS : Practical Intelligence & Control System-

沢 恒雄^{*1}

Tsuneo SAWA^{*1}

^{*1}有工学研究科

^{*1}Yuu Kougaku Institute

Email: yre00736@nifty.ne.jp

あらまし : GMAIS (Global Model Architecture Information System) は、思考支援環境、合意形成支援環境及び集団意思決定支援環境を提供するモデルベース構築のための情報概念である。本研究では、経営日本語教育コースのコース開発・実践・評価・分析の 1PDCA サイクルで、節目ごとの省察を経て、規範もモデルとする。経営関連のコースは、経営学基礎コース、経営戦略基礎コース及びコース実践の節目ごとに事前・過程・事後の 3 省察を通じて獲得される暗黙知を言語化して、PDCA サイクルの“A”の過程で規範モデルに組み込んで、モデルの精緻かを謀る。結果として、教師と教育機関の活動を質と量の面から改善することを目的とする。

キーワード : 実践知獲得・継承機能, GMAIS モデルベース構築概念, PIACS

1. はじめに

アジア圏での官民一体での進出が進んでいる。必須である専門日本語教育で特に専門に「経営」を設定した研究は少ない。先行研究は、GMAIS (Global Model Architecture Information System) である。

2. GMAIS と PIACS システムの概要

GMAIS は、思考支援環境、合意形成支援環境と集団意思決定支援環境を提供する目的をもつ情報システム (IS) の概念である。課業レベルの業務の効率化と質的向上を得られ、モデルベースを基盤とした IS 化の概念である。数種類の適用業務適用化されて、IS 化がされ実務で稼動している。

実践知は、本質的に暗黙知である。経験知で一般的には言語化されない知恵といえる。しかし、理論的な学問体系は、概念が整理されて理論的に構造を持ち、明確なテキストで表現されている。理論的な筋立ちで説明できる特徴を持つ。これに反して、実践知は、言語化がされにくく、体系化や構造化がされていない場合が多い。具体性はあるが、断片的でもある反面、問題解決や業務の効率を上げたり、質的な効果を得られる知恵だといえる。

金井・楠見 (2012) では、この実践知を本質的な解明に近づけるような整理とかなり広範囲な職業について実践知獲得と継承の方法を探索している。なお、PIACS とは、Practical Intelligence Acquisition & Control System の略で実践知の言語化機能である。

3. 専門日本語教育から経営日本語教育へ

専門日本語教育学会は、設立して 12 年になり各種の専門領域の教育コースを開発し、実践例もある。しかし、実現している専門領域は、介護・看護・法律・理学・工学などで決して多くはない。経営日本語教育の需要は、アベノミクスやグローバル化の広

がりで多くなるが、現実的には、まだ未着手である。

そこで、専門=経営と設定をして、経営日本語コースの開発と実践を行った。経営学基礎コース、経営戦略基礎コースの 2 本の経営学の基礎編と実践知獲得の基礎コースの開発を実施した。

さらに、日本語教師や日本語教育の組織ではコースの管理・運営の諸資源と資産を活用している組織は少ない。そのような IS の開発は急務であると考えて、実践知獲得と継承を行え、モデルに繁栄させて、組織活動の PDCA サイクルをまわすことで、実践知の言語化と、そのモデルへの反英により、個人と組織の活動が円滑化できるようない概念を構築した。

4. GMAIS と PIACS の統合 : GMAPIA システム

GMAIS 概念に PIACS 機能を組み込んだ経営日本語教育システム統合の概念を第 1 図表に示した。

ここで、いくつかの手法を採用した。コースの節目となる実践や評価などで、それぞれの過程で事前、事後と過程の省察を実施する。思考支援環境では、クリティカルシンキングの考えで、どのような思考法が妥当であるかのガイドをシステムから提示する。

それを参考にコースの録画・録音コーパスや教員・学生自身の評価など、さらには過去に実践して得られた類縁モデルを探索した内容などを参照しながら、思考を深めた省察の結果から実践知を獲得する。

結果を規範モデルに反映させてモデル自体の質的改善を謀る。個人と組織の活動の量的効率と質的改善が行われる。

参考文献

- (1) 沢恒雄, 和多田作一郎: “知識時代の経営情報管理論”, 白桃書房, 東京 (1997)
- (2) 金井尋宏, 楠見孝: “実践知 エキスパートの知性”, 有斐閣, 東京, (2012)

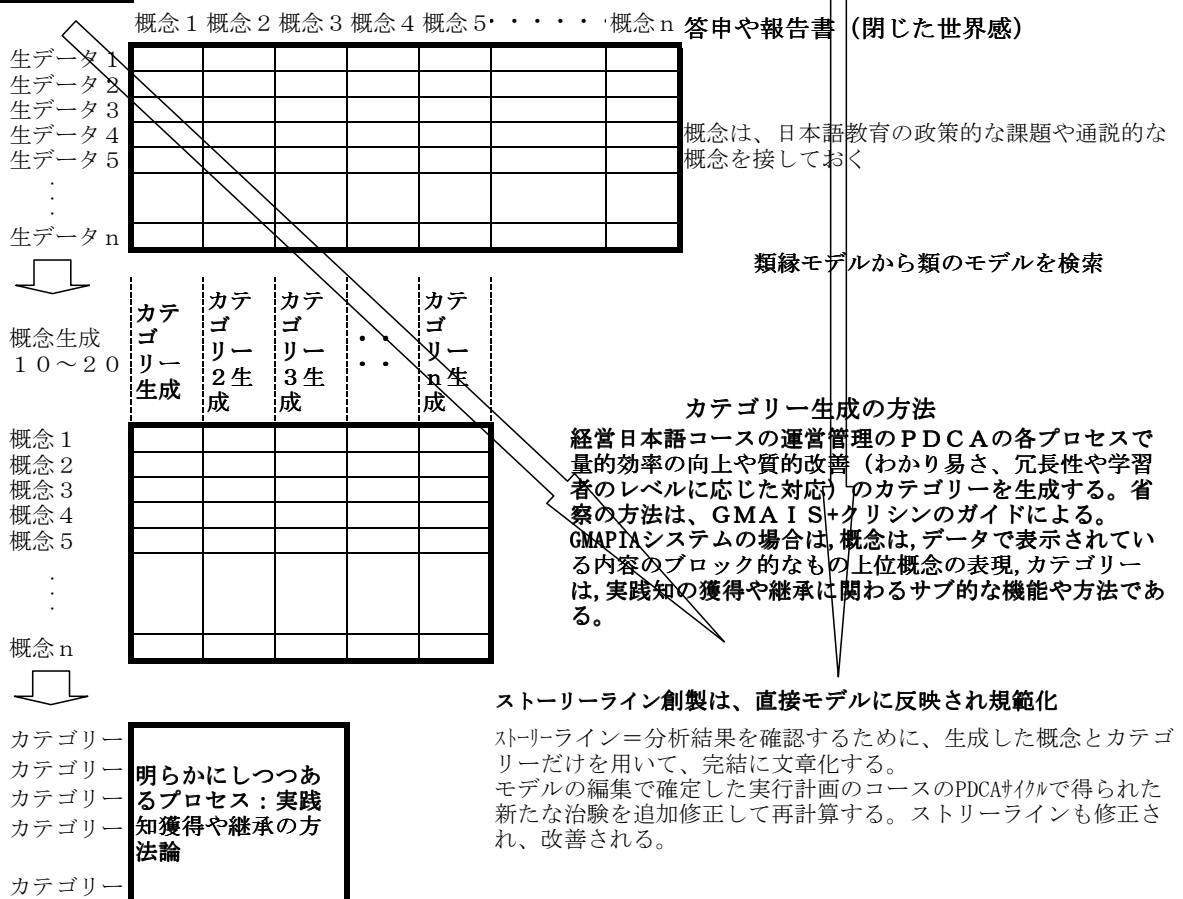
第1図表 「実践知」獲得の概念

採用した概念等：①クリティカルシンキング、②質的研究、③MBR、④省察、⑤GMAIS概念

MBRの構造

	問題部						回答部	類似度	
	特徴1	特徴2	特徴3	特徴4	特徴5	特徴n			
訓練事例	0	1	0	1	1	...	1	カテゴリー1:	○○○○
	1	1	1	0	1		0	カテゴリー2	○○
	0	1	0	0	1		1	カテゴリー3	○○○○○
								カテゴリーn	○○○
質問事例	0	1	1	1	1		0	?????	

GMAISによる「実践知」獲得のためのプロセス



GMAIS規範モデルの改良

